

福島県男女共生センター図書室だより

第 86 号
2022. 9. 20

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

新たな時代に向けて

— 多様性をみつめる —



分類番号 7102 セ

『テレビは見ない』というけれど

—エンタメコンテンツをフェミニズム・ジェンダーから読む—

西森路代 清田隆之 松岡宗嗣 武田砂鉄
前川直哉 佐藤結 岩根彰子 鈴木みのり
青弓社編集部 青弓社

本書は、8人による「フェミニズム・ジェンダー」という視点から、テレビ（特にバラエティーとドラマ）番組を通して問題点や可能性を考え、読者に問いかけてきます。

私たちは、放送されている番組を見て、「楽しい・笑ってしまう」ことも多くあります。知らない事がわかる楽しさもあり、思わず、「それ本当？」と突っ込みを入れてしまう内容もあります。

しかしながら、ジェンダーという視点から考えた時、表面的な部分ではなく、奥底にある問題点を指摘しているのです。「うわべ」だけを見ていたことにハッとしたり、単純な感想を持っていたことを反省することもありました。

テレビをみる視点やスタイルが変わる、そんなことを考えさせられる一冊です。 (T. Y.)



分類番号 J1203 ミ

「武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方」

宮田律 平凡社

コロナ禍の世界で、私たちが平和を作るために何ができるのかを考えさせられました。

40年以上も戦争が続くアフガニスタンで現地の人々の気持ちに寄り添って、「平和・相互扶助」の精神で最後まで支援を続けていた、中村哲医師の活動を紹介している著書です。

著者は、タイトルの「武器ではなく命の水を」という言葉を、中村哲医師の活動を紹介したドキュメンタリー番組から取ったそうです。中村医師は、医療や衛生の支援にとどまらず、戦争に加担せずに食べ物を得て平和に生活できるようにと、現地の人々と砂漠に用水路を建設して安全な水を手に入れる支援をし続けます。砂漠を緑地化し農地で作物を育てる技術を教えることで、人々は笑顔で自立した生活を送れます。戦争に使う武器ではなく、命の水をおくりたいという中村医師の平和への思いが力強く問いかけている一冊です。 (S. S.)



分類番号 3206 テ

「デジタル時代の子育て」

—年齢に応じたスマホ・パソコンとのつきあい方—

ディアグノーゼ・メディア 編集責任
ミヒャエラ・グレックラー 原書監修
村田光範 日本版監修
内村真澄 翻訳 イザラ書房

医学博士である著者は、「早い時期からスクリーンメディアに触れた子どもや若者たちにすでにダメージが生じている」と懸念しています。

コロナ禍で職場でも学校でもデジタル化が大きく進み、もっと早く取り入れるべきだったのではないかと単純に考えてしまいます。

著者は子ども達にとって肉体的にも精神的にも、年齢的にはアナログの世界で集中的に自身と環境を体験すべき時期であると考えているのです。以前からゲーム依存問題があったのですが、コロナ禍で大きく増加したのではないかと心配されているのです。子どもや若者たちが大人になった時に土台になるのは、健全な“脳”の発達であるという研究もあるのです。

この本は、「毎日の生活や学校生活の中でどのようにしたら子どもたちの健やかな成長を促すことができるか」、という目的で書かれています。

この本の中で著者が紹介している法則があります。「3—6—9—12の法則」です。フランスの心理学者セルジュ・ティスロンが発達段階に応じたためやすで、特に親への指針として紹介しています。

「3歳以下の子供にはスクリーン機器を使わせない、6歳以下の子供にはビデオゲームをさせない、9歳以下の子供には監督なくインターネットを使わせない、12歳以下の子供にはソーシャルネットワークサービスを使わせない」というものです。更に、「12歳までは親がルールを決め、12歳以降は親と子どもと一緒にルール作りをすることを基本」と考えています。

親がルール作りを率先して決めること、これまであまり経験してこなかったことではないでしょうか？子どもが年齢によって現実世界で精神的に肉体的に体験することが将来の土台作りになっていることも考えながら、ルール作りをする大切さを感じました。 (T. Y.)

分類番号 2110 イ

「ひとりをたのしむ 大人の流儀 10」

伊集院静 講談社

本書は週刊現代の連載をまとめたエッセイ集で、東日本大震災の最中からの執筆となった、大人の流儀シリーズも今作で10回目の作品です。

くも膜下出血という大病からの復活という著者ですが、伊集院静は健在で、「そうそう・・・、そうそう・・・」とうなずきながら、サクサクと読ませて頂きました。

読み終わってから、「ひとりをたのしむ」とはと、考えた時、人は誰でも別れ、離れてひとりになり、コロナ禍においては、人のかかわりやふれあいが激減している昨今ですが、そんな中でも「あわてるな」、ひとりのときをじっと味わう人生、こんな楽しみもあったのだと・・・。エールを下さっているようにした。 (K. M.)



分類番号 1102 ボ

「モテないけど生きてます」

—苦悩する男たちの当事者研究—

ぼくらの非モテ研究会/編著 青弓社

月に1、2回、十人程度の男性たちが、公共施設の一室に集まってくる。部屋の入口には「ぼくらの非モテ研究会」と書かれた看板が掲示してある。

「ぼくらの非モテ研究会」とは、2017年12月24日に発足した関西を拠点にする男性のための当事者研究グループです。

本書は、モテるためのテクニックを学ぶのではなく、「あるべき男性像」を問い直しつつ、「モテない」悩みに絡み合わないという多様な生きづらさを時にユーモアを交えて描いています。

女性目線のジェンダー本はたくさんありますが、男性たちの切実な語りから、多様で、より良い生き方を探る、新しい時代の男性学を切り開く一冊ではないかと思えます。 (K. M.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書 名	著 者 名	出 版 社	分 類
1	ルポ コロナ禍で追いつめられる女性たち 深まる孤立と貧困	飯島裕子	光文社	1101 イ
2	ノーベル文学賞が消えた日 スウェーデンの#MeToo 運動、女性たちの闘い	マティルダ・ヴォ ス・グスタヴソン	平凡社	1101 グ
3	田辺聖子 十八歳の記録	田辺聖子	文藝春秋	1202 タ
4	あきらめない「強い心」を持つために	池江美由紀	アスコム	3206 イ
5	ミルクとコロナ	白岩玄 山崎ナオコ	河出書房新社	3206 シ
6	父がひとりで死んでいた 離れて暮らす親のために今できること	如月サラ	日経 BP	4102 キ
7	ぜんぶ体型のせいにするのをやめてみた。	竹井夢子	大和書房	5102 タ
8	残照の頂 続・山女日記	湊かなえ	幻冬舎	6102 ミ
9	らんたん	柚木麻子	小学館	6102 ヨ
10	夜明けをつれてくる犬	吉田桃子	講談社	6108 ヨ

利 用 ガ イ ド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話
の使用はご遠慮ください。

編集後記

コロナ禍で、三年ぶりのお祭りが開催されたと喜びいっぱい
のニュースが各地から飛びこ
んできます。しかし、夏休み
も終わる今日このごろ、新型コ
ロナ感染者数の急拡大が心配
されています。

県内でも「福島県医療非常事
態宣言」及び「福島県感染拡大
警報強化版（B.A.5対策強化
宣言）」を発出し、感染対策を
強化しているところです。

私たちも仲間と共に十分に
気をつけながら、心のオアシス
になる図書のご案内をしてい
きたいと思います。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成グループ

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)